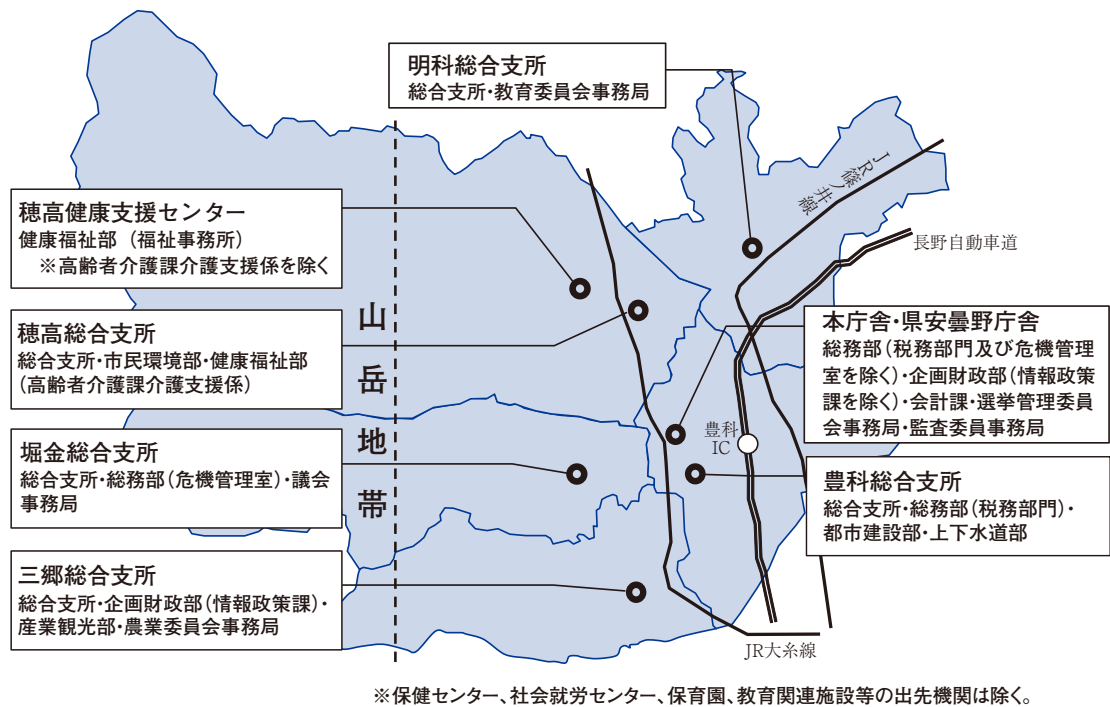
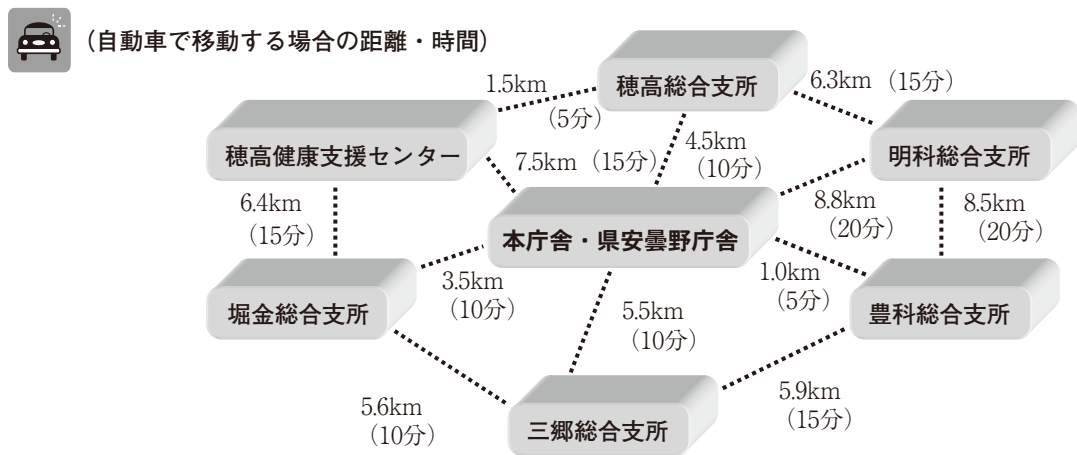


市庁舎の位置と部等の配置状況



主な庁舎間の距離



本庁舎



県安曇野庁舎



豊科総合支所



穂高総合支所



三郷総合支所



堀金総合支所



明科総合支所



穂高健康支援センター

分庁方式の主な課題

分庁方式は、市民にとって分かりにくくなること
が多く、効率的な行政運営が図れないという課題
があります。

本庁舎建設の必要性

第2回審議会では、安曇野市の庁舎の現状と課題
を整理する中で、左表の理由から『本庁舎の建設は
必要であり、合併の効果を生かすために建設を前提
に協議を進めていく』ことを確認しました。

課 題	内 容
市民の利便性	市役所の機能が各庁舎に分散しているため、市民にとって、どこにどの部署があるのかが分かりにくい。
庁舎の老朽化	老朽化した庁舎を耐震補強工事する場合または同規模で建て替える場合は、本庁舎を建設した場合と同じくらいの費用を要すると考えられる。
職員の移動経費	職員が業務上、各庁舎間を行き来する時間は年間 18,400 時間に及ぶ。これは職員約 9 人の年間勤務時間に相当。また、移動距離は年間 46 万 k m。仮に本庁部局を 1 カ所に集約できれば、年間約 8,100 万円の人件費や燃料代を節約できると考えられる。
公用車や事務機器の保有台数	分庁方式をとっていることから、安曇野市は他市よりも公用車を多く保有しているほか、コピー機などの事務機器も多く保有している。仮に本庁部局を 1 カ所に集約できれば、より多くの職員が共有で利用できるため、公用車は約 80 台、コピー機は少なくとも 10 台が削減でき、年間約 2,000 万円を節約できると考えられる。

課 題	内 容
市政の拠点	支所機能を除く、すべての本庁機能を可能な限り集中させることができる建物が必要である。市民にとって 1 カ所ですべての用事を済ませることができる利便性が不可欠である。
効率化と経済性	職員が会議や連絡調整のために 8 つの庁舎間を移動しているが、本庁機能が 1 つになることにより、移動に関する経費の削減や、公用車の保有台数の削減、コピー機等の事務機器の削減が可能になり、年間 1 億円以上の経費を削減することが可能である。約 20 年間で削減できる経費は、※合併特例債を活用して新しく本庁舎を建設した場合の市の負担額とほぼ同額になると試算される。25 年、30 年、さらに長期的な視点で考えると、市の財政面にとっても、市民にとっても大きな合併効果となる。
防災拠点	有事の際、耐震基準を満たしていない庁舎が地域の防災拠点となり指揮命令系統が機能するのか大きな不安がある。市民の安全を最優先に確保するため、迅速な指揮命令ができる耐震性を備えた防災拠点が必要である。
市民の一体感の醸成	安曇野市のシンボルとなる本庁舎の建設は、市民の一体感醸成に大きな効果がある。

※合併特例債は、合併年度及びそれに続く 10 カ年度に限り活用できる国からの借入金です。対象事業費の 95%まで借り入れることができ、返済額の 70%が地方交付税として市に交付されます。

市民アンケートにご協力ください



安曇野市本庁舎等建設審議会は、住民基本台帳から無作為に抽出した 20 歳以上の市民約 4,500 人にアンケートの調査票を郵送しました。調査票が届いた場合は、ぜひ調査にご協力いただきますようお願いいたします。(未回答の方は 12 月 25 日(木)までにご投函ください。)アンケート結果については、本庁舎の規模・機能、建設候補地の選定等を協議するための重要な資料として活用させていただきます。また、調査結果の内容は、広報あづみのでお知らせします。

☎総務課庶務係 (TEL 71・2000 FAX 71・5000)